


滄桑の街・香港から(2)

滄 桑

海の青さを表す「滄」と桑畑の「桑」の二つの文字を合わせると「滄桑」。これは、「世の中の移り変わりが激しい」を一言で表現している言葉です。「海が変じて桑田になる」という劇的变化は、ここ香港においては、キーワードです。ほそほそと漁業しかすることのなかった香港が、世界有数な国際・経済都市になりました。しかし、その陰には、中国の混乱、日本の侵略といった世

今井 七重

の動乱があり、昨年の歴史的香港返還等の懸念材料を常にかかえ変化を続けています。幸せそうにみえる陰に常に不安材料をかかえ、それでもそれに立ち向かい、自分と家族の幸せを勝ち取るうとしている個人々の、人生そのものも又、「滄桑」といえます。この連載を始めるにあたり、この言葉をタイトルの一部に選びました。

移り変わりが激しいと言えば、香港の天気の変化には、驚かされます。天気予報に雨・晴れ・曇りマークが同時に表示されるのは、日常です。九月に入ると比較的落ち着きますが、四月から八月は特にその傾向が強いといえます。子どもの学校案内の最終ページには、台風・豪雨警報発令時の対策という項目があり、それによると、豪雨の時には、テレビに大雨マーク  が表示され、雲の色は次の四種類です。

緑色——大雨注意報ですが、休校にはなりません。


黄色——休校ではありませんが、天候の悪化により赤に変わる可能性がありますのでテレビ等の情報に注意し
て下さい。

赤色——臨時休校になります、既に登校の時は、安全を確保し下校させます。

黒色——臨時休校になります。

ちなみに、この黒の場合は、勤め人にも適用されるため、出社してはならず、既に会社にいる場合には、黒色が解除されるまで、その場所を離れてはいけないことに

なっています。

日本の台風時・交通スト時同様、大切な情報であるもののそれを必要とする時は、ほとんどないだろうとたかをくくっていたのですが、一学期中、子どもたちは赤雲マークのため、五回ほど臨時休校になりました。どのチャンネルでもテレビの画面右下に  マークが表示されていました。我が家のアパートからは、啓徳空港の離着陸が、その向こうには九龍半島側の林立するアパート群が良く見えるのですが、ひとたび雨が降ると、もやがかかり、十メートル先も見えなくなります。しとしと降るといふ表現は、ないに等しく、降るとなるとスコールのようなどしゃ降り、窓ガラスをたたきつける雨音の激しさと、アパート玄関前のくだり坂をまるで滝のように流れる雨には恐怖すら覚えます。雷もびかっと光ったかと思うと、間髪入れず、ゴロゴロドシン。ピカッ、ドシン、ピカッ、ドシンとあわただしくすさまじいものです。

しかし、このお天気も、信じられないぐらいのスピー

ドで回復します。朝、六時前、「テレビに赤雲マークが表示されましたので、今日は臨時休校です」の連絡網で「今日一日なにをして過ごそうかしら」と思っている。雨がいきなり止み、青空がのぞきはじめ、滝のように流れていた玄関前の道路は、その跡形も残さず、乾きはじめます。そして九時には、なんと快晴状態になります。「今からでも学校にいつてくれないかしら」と体力を持って余し気味の子どもを見て、ため息をつきますが、「スクールバスの都合がつかない」ことや「学校に行くまでの交通渋滞及びがけ崩れが予想される」ため、一度休校になると、親子共々天気もまた滄桑の香港を恨めしく思いながら、家で（時には、プールにいったりして）一日を過ごす事になります。

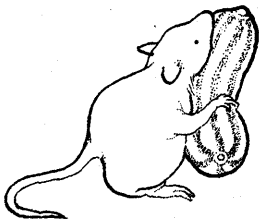
反対に、今まで快晴だったのに、突然降り出した大雨で全身ずぶぬれになるといふ事もありました。徐々に雨足が強くなるというより、いきなり豪雨です。たかだか五メートルの距離でも傘無しでいくには、かなりの覚悟をせまられます。仮に傘をさしていても横殴りの雨で、

かなり濡れてしまいます。よく、ビルの軒下で傘を手にしていても、雨宿りをしている人を見掛けますが、気持ちばかりです。でかける時は、天気予報を見るようにしていますが、このような激変に対する自衛策は常に折り畳み傘をバッグにいられておくことです。

しかし、意外な事に子どもたちは、スクールバスが学校のひさしのある場所にとまりますし、スクールバストップまでは、親が傘をもって送迎にできますので、雨具とは無縁です。

駐在の日本人は、余暇を利用してテニスに励んでいる方が多いのですが、予約時間の二時間前に雨が降っていても、「まだ、

中止かどうかわからないわ。一時間前に決定しましょう」という感じですよ。なんだか、予定がたらず、天気から、香港全



体にまで、嫌悪感を抱きそうになる事もありましたが、ぎりぎりまで、諦めない姿勢が身についたと、いいように解釈するようになりました。

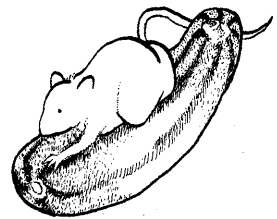
人の出入りが多いのも、海外の特徴と言えます。子どもたちの小学校では、この夏に二十名近くの生徒が日本もしくは、新たな転任地に向け香港を離れましたが、二学期には、又同人数の転入生を迎えました。

さて、こんな状況の中での役員選出について触れてみたいと思います。役員選出については、日本でも色々問題を提起しているようですが、香港日本人学校タイポ校の選出方法は、かなり興味深いものがあります。クラス役員二名、移動が多い場所柄、補欠六名を選出します。役員選出の招集日の十日前迄に、役員免除項目、考慮項目のどれに該当するかを申告する書類が担任を通じて配られます。役員免除項目には、過去二年間に常任委員及びその上の実行委員経験者、過去二年間にバス委員（スクールバス関係のお世話をする人で、この仕事もかなりの負担といわれています）正・副委員長経験者、教

職員の家族、未就園児のいる人、現在妊娠中の人が対象になります。考慮項目では、過去に常任委員を経験された人が一番に考慮され、順に、過去にバス利用者の幹事を

経験された人、前年の十月以降に常任委員を経験された人（転勤等で途中から、役員になる人がいるためです）、今年の二月一日以降に来港された人、未就学児のいる人となっています。ちなみに、私は、四月一日来港ですので、優先順位下から二番目の考慮項目に該当しました。

役員選出当日は、各クラスごとに集まり、上部の役員経験者の司会進行のもと、敵かに幕が切られます。出席者の確認、委任状提出者、無断欠席者の名前を読み上げた後、お決まり通り、立候補者を募りますが、当然、いません。続いて、免除項目該当者が立ち、名前及び免除



内容を述べます。それが、終了すると、免除項目対象全員が立ち、椅子とりゲームが始まります。考慮項目一番から順に該当者が名前を言って、椅子に座っていきま
す。だんだんと立っている人が少なくなり、八名になつた段階で、今年の役員が決定です。かりに考慮項目に該当していても、八名に入れば、役員になってしまいま
す。

私の場合、まだ十名近く立っていたので、考慮項目が尊重され、ぎりぎり椅子に座る事ができましたが、未就学児のいるお母さんたちは、私より、考慮項目優先順位が低いため、役員補欠になりました。仕事を持っている、幼稚園の役員をやっているというのは、考慮項目にも該当しません。しかし、今回、お仕事がハードで休めない、手術後なので無理、日本語が不自由という理由で辞退したいという人が数名いて、彼女らは、前記の手順で立っている人が少なくなった時に、自分の立場をまだ椅子に座っていない人たちに訴えました。幸いその全員が了承したため、受け入れられました。今回、かろうじ

て椅子に座われた私ですが、来年は、何も考慮項目がないので、覚悟しています。

上の娘の日本での学校の役員は、有無をいわせず、出席番号順にまわってきました。とても合理的な方法だと気に入っていましたが、香港での役員選出も、海外にいることをあらためて感じさせ、納得のいく体験でした。

色々な意味で、滄桑がキーワードの香港。これからもそんな部分を感じていきたいと思っています。

(元幼稚園児の母・香港在住)